

市民のひろば ～震災の記憶を後世に～

レポート②06

今月号は、平商業高校3年の遠藤涼香さんに、震災時の経験や8月にフランス・パリで行われた「東北復興祭」の様子などについて、インタビューした内容をお伝えします。



遠藤涼香さん（平商業高校3年）

Q 地震発生時はどちらで何をされていましたか。

当時は、中学二年生でした。部活で負ったけがの治療のため、母と病院を訪れ診察を待っている時に、体験したことのない大きな揺れに襲われました。

すぐに、自宅に帰ることにし、途中、国道が混んでいたため、海沿いの道路に入ったところで、車よりはるかに高い津波にのみ込まれました。しかし、車のガラスが割れず息ができたこと、防風林の松の木の間で車が挟まり引き波にもさらわれずに済んだこと、ドアが開き車から脱出できたことなど、いくつかの奇跡が重なり、助かることができました。Q 震災以降、一番大変だったと感じたことは何ですか。学校が再開されるまでのひと月ぐ

らいは、津波にのまれたショックと先の見えない不安で、友人の安否を気にすることも、連絡を取ることもできず、一番つらい時期でした。一学校が再開され、友人と震災での経験を話しながら、涙を流すことで、少しずつつらい経験を浄化していくことができました。

Q 被災地を教育で変えていくプロジェクト「OECD東北スクール」に参加するきっかけは何でしたか。このスクールに参加していた友人から、フランスのパリで東北をアピールする事業に取り組んでいることを聞き、自分が津波にのまれた震災での経験を、世界に伝えるべきだと強く思い、途中からでしたが、参加させてもらいました。

Q パリでの「東北復興祭」に参加していかがでしたか。言葉の壁はありましたが、私たちの震災体験の語りにも、たくさんの方が足を止め、耳を傾けてくれました。「黒い波」を「砂利や細い木の枝が混ざった茶色く濁った波」と説明するなど、一つ一つの言葉を丁寧に説明したり、声のトーンや抑揚をつけ、聞いてくれる人の心に届くよう工夫をしました。その結果、一番伝えなかった命のありがたさが、言葉の壁を越え、聞いている方に伝わったと実感できました。

Q 今後のいわきの復興に向けて、取り組んでいきたいと思うことは何ですか。OECD東北スクールに参加して、NPOに興味を持つようになりまし。これまでは、依頼を受けて語ることばかりだったので、ボランティア団体を作り、積極的に発信することで、震災を風化させず、さまざまな経験を語り継いでいけるような活動をしていきたいと思っています。



パリで行われた「東北復興祭」で、仲間とともに浴衣姿でメインステージに立つ遠藤さん（前列右から4人目）

災害といわき

其の七

絵はがきの中の災害①

「絵はがき」と「災害」。一見、まったく関係なさそうな二つの事象が、かつて関わりを持っていたことをご存じですか。

テレビやインターネットが出現する以前、画像は映画か新聞でしか見ることはできませんでした。しかし、庶民にとって映画はそれほど多く見る機会はないし、新聞にしても印刷技術が未発達であったため、鮮明でないという制約がありました。

これに代わる存在として登場したのが、絵はがきでした。明治三十年代に姿を見せ、速報性という面で新聞より劣っていましたが、解像度の高い印刷で画像を多くの人に届けることができました。爆発的な人気を得たのが、日露戦争勝利のシリーズ絵はがきでした。戦況のイメージを絵はがきで知ることができたのです。

こうして、多くの方が知っている観光絵はがきだけでなく、名所・旧跡、交通PR、産業広告、人物、建物、学習教材、記念イベントと、さまざまな情報を身近に届けてくれる格好な手段として絵はがきは確立され、その一種に「災害」がありました。

いわき地方の災害に関し、絵はがきが仕立てられたのが、大正十一年（一九二二）年二月に発生した「えびす講大水」でした（写真1、2）。

（いわき地域学會・小宅幸一）

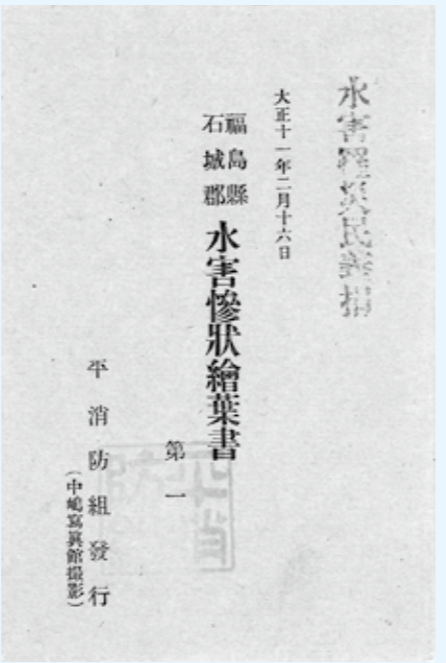


写真1 「石城郡水害惨状絵葉書（第1集）」（大正11（1922）年2月 平消防組発行）



写真2 「石城郡水害惨状絵葉書（第1集）」綴（現内郷）駅付近の復旧／平町長橋町付近の漂流物引き揚げ

9月15日(月)の市役所本庁舎、各支所・市民サービスセンターでの放射線量測定値

庁舎・支所	平(本庁)	小名浜	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久之浜・大久
地上1m	0.112	0.037	0.047	0.067	0.055	0.058	0.061	0.062	0.059	0.076	0.076	0.072	0.133
市民サービスセンター	中央台	豊間	泉	測定時刻：10時 単位：マイクロシーベルト/時 出典：原子力規制委員会ホームページより									
地上1m	0.087	0.123	0.063	モニタリングポストは、マイクログレイ/時で測定されていますが、本表では1マイクログレイ/時=1マイクロシーベルト/時と換算して表示しています。 ※久之浜・大久支所は、改築工事のため、当面、久之浜西公園での測定値を掲載します。									

※過去における測定値、平成22年度の市内の状況については、0.04~0.07マイクロシーベルト/時で推移していました。（福島県ホームページより）

水道水の放射性物質の測定結果 水道局では、市内全12浄水場の水道水を週3回（遠野地区の3浄水場は週1回）検査しています。現在の検査結果は、放射性ヨウ素・放射性セシウムとも、全て不検出（1ベクレル/kg未満）であり、安心して飲んでいただけます。

放射線に関する問い合わせ窓口（県設置窓口） ☎0120-988-359 平日：8時30分~18時30分 土日祝：8時30分~16時